



# はなのき

神坂小学校だより No.11 2022.1.20



## 勇気をもって前へ

校長 高橋 浩之

新年あけましておめでとうございます。あらためて、旧年中は保護者並びに地域の皆様方のご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。

今年も寒い日が続いています。冬の恵那山のように吐く息は白くなり、休み時間など外で活動する時間も少しずつ減っていますが、子供たちは元気に生活しています。冬休み明けの学級活動では、冬休みがんばったことや今年がんばりたいこと、今年度やりきりたいことなど様々な経験や抱負を話していました。新しい年を迎え、新たな気持ちで挑戦していこうとする子供たちの声がたくさん聞こえてきました。その声を聞き、私は次のことを思い出しました。

「長い人生だから数多くの障害物にぶつかるだろう。かわすことによって乗り越えられる障害物ならいい。しかし、本当に大きくて深刻な問題と直面した時は、体当たりで乗り越えていくしかない。それには常日ごろから、何事にも体当たりで進むように心がけていなければならないと思うんだ。いつものクセでかわしてやろうなんて思っていたら足をすくわれて、きっと痛い目にあうだろう。（中略）

とにかく“前へ”。ためらわずに“前へ”進め。それはつらく長い道のりかもしれないが、ゴールへの最も近い道であると僕は確信している」

明大ラグビー部北島忠治元監督『前へ 僕が明大ラグビーに求めたもの』より

辛く諦めそうな時や新たな気持ちでがんばろうとした時は、必ず思い出します。その時に必要となるのが、『勇気』だと思っています。今年度のやりきり活動も、今年の抱負も、挑戦しようとした時、一歩踏み出そうとした時『勇気』はとても必要だと思っています。この『勇気』はどこから生まれてくるのでしょうか。特別なトレーニングによって培われるものでしょうか。私は、生まれてくる時、すでに『勇気』をもって生まれてくると思っています。

神坂小の子は、嫌いなことも進んで学び、責任をもって最後まで諦めず努力することができる『勇気』をもっていきますし、すでに発揮している場面をいくつも見てきました。一般的には、世の中の物は、使えば使うほど減っていく物がほとんどですが、『勇気』だけは、使えば使うほど増えていくし、使わなければ減っていく特性があると思います。

これからも子供たちには、その一歩を踏み出してほしいと思っています。小さくてもかまいません。確かな一歩を一人一人が『勇気』をもって“前へ”“前へ”と踏み出せるように、教職員一同、寄り添いながら認め励ましていきます。

### コロナ禍での学校の教育活動に、多くの保護者、地域の方にお世話になりました。

昨年も、コロナ禍のため活動が自粛され、多くの行事ができませんでした。そんな中、保護者の皆様には、工夫した読み聞かせ活動や人数を制限した参観などご協力をいただきました。また、地域の皆様にも、行事の縮減はあったものの野菜作りやホタル飼育、米作り並びに餅つき、そして日々の見守り活動など本当にありがとうございました。本来なら感謝の会等を催すところですが、コロナ禍の状態や教育活動の時間数増加のため、その会が設けられません。誠に申し訳ありませんが、紙面にてお礼申し上げます。